



地下1階の多目的スペースには、季節の茶事が楽しめる広間の和室が設けられている。広縁越しに眺める日本庭園には、涼やかな音色を奏でる水琴窟を仕つらえてある

美しさと強さを併せ持つ精神性豊かな空間。
それが、建築家が追求し続ける
HOPデザインです。

住まう家族が生涯をかけて愛することができる、品格のある住まいを実現するため、設計から施工まで一貫した体制を整えました。室内の造作から小さな金具ひとつまで、丁寧に手づくりするのも、そうした想いの現れです。住まう家族が、建築家と夢や憧れを語り合い、少しずつ理想の空間やしつらえを見出していく。その喜びと感動を、多くのご家族と共有するため、HOPは東京、神奈川、軽井沢をはじめ、全国で独自の住まいづくりを展開しています。



石出 和博
Kazuhiro Ishide
建築家
一級建築士事務所アトリエAM代表取締役所長
HOPグループ代表 CEO

89年一級建築士事務所アトリエAM(株)設立、全国で作品を発表。96年林野庁と北海道の支援を受け、新しい住宅供給システムHOPを設立育て上げた。97年グッドデザイン北海道、2001年林野庁長官賞、2006年経済産業大臣賞、(消費者志向優良企業)など。著書に「家を建てる前に読む本」ハウスクター診察室(2005年刊)石出和博とアトリエAMの世界(2008年刊ART BOX社)などがある。
2010年経済産業省JVA環境特別賞受賞



広縁から和室を見る。北山杉を用いて床の間をしつらえた広間は、清々しい木の香に満ちた和のもてなしの舞台となる



大開口と吹き抜けのあるリビングと天井高を抑えたDKの好対照。そして、アイアンの手すり、階段が描き出す優美なアールをアクセントに加えることで、豊かな空間性を創出



本物の住まいとは、健康的で心地よく、ライフスタイルの変化にしなやかに寄り添い、歳月を経て深みを増す美しさを持っています。

ハウジングオペレーションアーキテクト(HOP)は、美的な発想をカタチにし、高いデザイン性、品質を具現化するため、無垢材をはじめとする自然素材を生かした伝統的な木造軸組み工法を採用。さらに、独自のHOP工法により、在来工法の2.5倍の強度と耐久性を実現しました。

私たちは「森を建てよう。」という理念を掲げ、国産材の活用を徹底。これにより、植・育林のサイクルを進め、森林の荒廃に菌止めをかける一助になることを願っています。木材を使って家を建てることは、森林が吸収した二酸化炭素を定着させ、快適な環境を守ることにもつながります。また、あたたかみ「森に住まう」かのような、自然の息吹に満ちた心豊かな住まいをお届けしたいという、想いも込められています。

公道に面した北東面は、開口を最小限に。波のようなアールを描く柵引の御影石や繊細な外構フェンスが、端正なファサードにやさしいニュアンスをまどわせて